



柑橘園におけるイノシシ被害(倉橋町)

原図: 病害虫防除所

## 深刻化する農作物への鳥獣被害

野生鳥獣は自然環境を構成する重要なメンバーであるとともに、学術や文化の観点からもなくてはならない存在である。しかし、我々人間が野生鳥獣の生息地域を侵害するに伴い、餌不足から彼らが食糧を求め人里へ出没せざるを得ない状況に追いやった。

年次ごとに変動はあるものの、県農林水産部が行った平成8年から12年までの5年間の調査によると、鳥獣による農作物の被害面積は毎年3,000haに達し、被害金額は7億円に及ぶと推定される。被害は稲・野菜・果樹・いも類および豆類と広範囲に及び、近年は島しょ部における柑橘類への被害が急増している。

主な加害種はイノシシ・タヌキ・サル・シカ・カラスおよびヒヨドリで、中でもイノシシの被害は県内各地で認められ、鳥獣によるすべての被害面積と被害金額のおよそ50%を占める。

イノシシによる農作物の被害様相は、茎葉や根の直接的な食害、遊び的な要素を含めた倒伏・倒踏害

であり、雑食性ゆえに土壤中の小動物を求めて果樹を基部から倒伏させることもある。

イノシシの被害対策として電気柵・フェンス・トダンなどによる侵入防止、くくりわな・囲いわな・箱わななどによる捕獲および猟銃による射殺が行われている。捕獲率や安全性を考えると箱わなが推奨されるが、高価なため助成事業による普及が図られている。

環境研究部では鳥獣被害防止対策の支援技術開発事業の一環として農作物鳥獣被害測定マニュアルの策定に平成13年度から取り組み始めた。本事業の目的は、主にイノシシを対象に科学的な根拠に基づいた被害測定法を確立し、その結果を適切な被害対策の実行に利用するとともに、特定鳥獣保護管理計画に的確に反映させることにある。

環境研究部長

酒井 泰文

## 粉碎モミガラ培地を使ったらくらく自家育苗

野菜の自家育苗や花壇苗生産では、軽量で低コスト化が図れる培地が求められています。そこで、ライスセンターなどから容易に入手できる粉碎モミガラを主体とした軽量育苗培地について検討しました。

新開発の培地は、湿った状態の重量が慣行培地の約半分と非常に軽量です。価格は1L当たり野菜用が4~7円、花壇苗用が7~9円です。粉碎モミガラに含まれる過剰なカリを除去するため1か月以上野積みする必要があります。さらに、保水力を高めるためには2年以上野積みします。この培地は、表面は乾きやすいですが、底面が乾きにくいので水やりしすぎないように注意が必要です。

(園芸研究部)

### 資材の混合割合(容積比)

用途	粉碎モミガラ	ピートモス	パーライト
野菜苗	6	4	—
花壇苗	5	3	2

### 各用途における施肥量のめやす

用途	培地1L当り施用量
キャベツ・ヒロシマナ セル苗	燐硝安加里特号S660 2.5g
トマト ポット苗	燐硝安加里特号S660 0.9g + ロング424-40 2.3g
キュウリ ポット苗	燐硝安加里特号S660 1.6g + ロング424-40 1.3g
パンジー ポット苗	ロング424-100 6g + マグアンプK(中粒) 2g

注) 各培地には炭酸苦土石灰2g/l, ようりん2.1g/lを添加する



粉碎モミガラを使った培地で育てた苗  
上:キャベツ, 下:パンジー

## 夏秋トマトの新作型「早植え長期どり栽培」

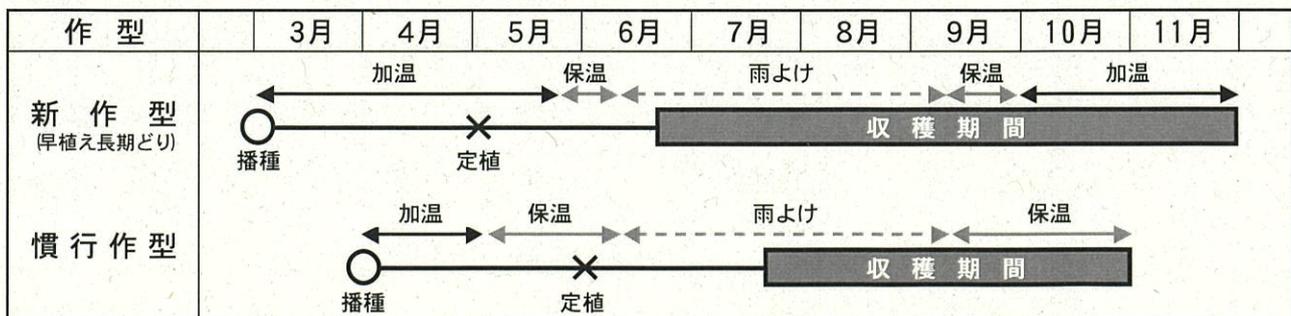
県北部のトマト産地では、近年耐風雪性強化ハウスや暖房機が導入され始め、環境の制御が容易になっています。そこで、新しい施設の特性を活かしたトマトの多収栽培技術について検討しました。

新作型の「早植え長期どり栽培」は、春季の加温によって定植時期を従来より1か月早めるとともに、秋季にも加温することによって収穫期間を大幅に延長する栽培方法です。収穫果房数が約6段増えて収量が約450kg/a(50%)増加します。また、出荷開

始が早まり、ピークも約1か月前進することから、慣行作型と組み合わせることで、選果場の有効利用が可能となります。

今後は産地での新作型の位置づけおよび導入規模の検討、苗の供給体制の確立が必要となります。また、収穫期間の長期化に伴い茎長が長くなり誘引作業が繁雑になるため、一斉つる下ろし法(本誌62号参照)による省力化が有効です。

(園芸研究部)



新作型と慣行作型の比較

## シュッコンカスミソウの夏秋季二度切り栽培

県北部では簡易な雨よけ施設によるシュッコンカスミソウの栽培が行われています。収益性を向上させるため、苗コストの低減と出荷期間の延長が可能となる夏秋季二度切り栽培について検討しました。

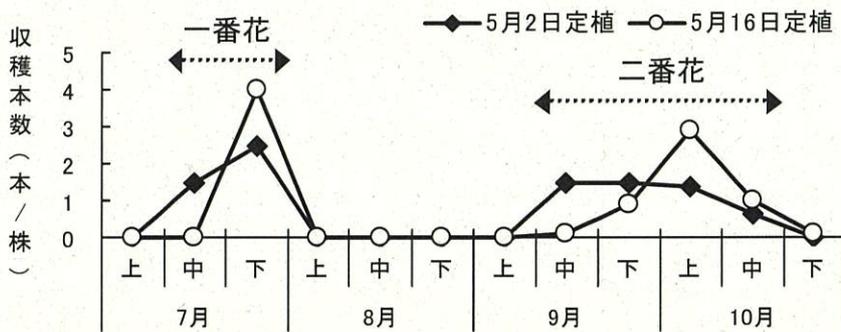
品種については「雪ん子」が最も適しており、高温による奇形花の発生が少なく、二番花の芽の揃いもよく、茎が硬いなどの特長があります。

定植時期は5月上～中旬が適しており、収穫は一

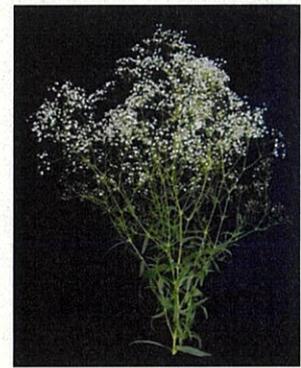
番花が7月中旬～下旬、二番花は9月中旬～10月中旬となります。しかし、6月定植では二番花の収穫が11月にかかるため、暖房コストが大きくなり実用的ではありません。

栽培が長期間となるため、追肥方法や電照技術についてさらに検討する必要があります。

(園芸研究部)



「雪ん子」の旬別収穫本数



「雪ん子」の開花状況

## 根こぶ病に強いヒロシマナの新品種を育成

ヒロシマナは、約400年の栽培の歴史を持つ広島県特産のツケナで、日常の食卓以外にも贈答品、土産物としての知名度が高い作物です。広島市安佐南区が古くからの産地で、最近では庄原市などでも栽培されています。しかし、長期間の連作による根こぶ病の発生が大きな問題となっています。根こぶ病は根に大きなこぶを形成する病気で、収量・品質の低下を招くため栽培農家を悩ませています。

そこで当センターでは、平成5年から交雑育種によって根こぶ病に強い新しい品種の育成を進めてきました。新品种は現地圃場でも根こぶ病の発症は見られていません。また、漬物としての食味も、これまでの品種とほぼ同等という結果を得ています。

今後、さらに系統を絞り込み、採種を行う予定です。香気品質の改良や晩抽性品種の育成についてはこれからの検討課題です。

(生物工学研究所)



3つの新品种と市販品種(右端)

原図: 広島地域事務所



漬物の食味試験

ひろしまの在来作物(25) — さわやかな甘味の黒すいか「下志和地在来」 —

肉色は淡黄で肉質柔らかく、シャリとさわやかな甘味がある小型の枕型黒すいかである。三次市下志和地町春木集落の升田昌三氏が昭和50年に三次市の八百屋「尾関商店」で購入したのがはじまりで、以後20年以上自家採種している。果重は着果数の多少にもよるが、平均して3kg程度（これくらいの大きさにした方が良い）、皮色は暗緑で縞はなく果皮は薄い。

葉はやや大型で低温伸長性に優れるが、土壌病害には弱いようなので、連作する場合は耐病性台への接木が望ましい。着果が非常によいため必ず摘果する。1株の着果数は栽植密度と関係があり、3.3㎡当たり1株の場合は5～6果とする。果梗が蔓から離れ易いため、果実にマットなどを敷く時にはできるだけ動かさないように注意する。盆前収穫を狙う作型の場合、着果後30日程度で収穫できる。巻き蔓の枯れ具合と打音によって収穫期を判定する。収穫後の貯蔵性は劣る。

(ジーンバンク技術主幹： 船越 建明)

(財)広島県農業ジーンバンクが収集した貴重な県内遺伝資源(種子)をシリーズで紹介します

◆刊行物案内

- 広島県立農業技術センター研究報告第69号
- 広島県立農業技術センター研究報告第70号
- 平成10, 11, 12年度土壌保全対策事業成績書
- 平成13年度水稲関係除草剤成績書

◆会議・研究会・行事(日時等については変更になることがありますので予めお確かめください。)

- 第34回農業技術センター研究成果発表会(聴講自由, 多数おいでください)

日時：平成14年3月15日(火) 10:00～16:00 場所：農業技術センター講堂

◆農業技術センター 1～3月見どころ案内

- 作物研究部：麦・イグサの生育状況
- 園芸研究部：高設栽培イチゴの生育状況, ホウレンソウ, コマツナの1～3月出荷栽培生育状況  
新整枝法によるロックウール栽培バラ, スプレーカーネーション新品種の開花状況
- 環境研究部：半促成栽培トマトのトルネードファンを利用した湿度調節による葉面の結露除去
- 生物工学研究所：根こぶ病抵抗性ヒロシマナの生育状況

※この他、視察、見学等は常時、全所で受け付けています。どうぞ見学においでください。

<p>発行 広島県立農業技術センター (企画情報部) 〒739-0151 東広島市八本松町原6869 TEL 0824-29-0521 FAX 29-0551 ホームページ <a href="http://www.arc.pref.hiroshima.jp/">http://www.arc.pref.hiroshima.jp/</a></p>	<p>編集後記 21世紀最初のノーベル化学賞を野依名大教授が受賞した。受賞理由の不斉合成反応技術は違う目的の実験からできたという。チャンスを生かすには、知性、感性に技能(意欲を持った経験)が必要。</p>
--	--

組織と所在地

農業技術センター 本	所 (総務部, 専門技術員室, 企画情報部, 作物研究部, 園芸研究部, 環境研究部, 生物工学研究所細胞工学研究室, 同育種研究室)
” 果樹研究所	〒729-2402 豊田郡安芸津町三津2835 TEL 0846-45-1225 FAX45-1227 (管理課, 常緑果樹研究室, 落葉果樹研究室)
” ” 柑橘研究室	〒729-0321 三原市木原町463 TEL 0848-68-0131 FAX68-0181